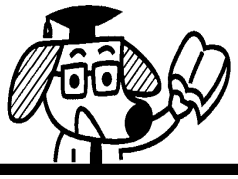


地図記号はだれが決めたの

●明治の初めごろ地図記号ができた

地形図を使うときには、なんといっても、図形を構成している地図記号を知ることが大切です。地図記号は、明治１０（１８７８）年ごろ、国によって決められました。地形図の記号は、現在では１５０種類ですが、時代とともに少しづつ変化しながら、現在の形になりました。

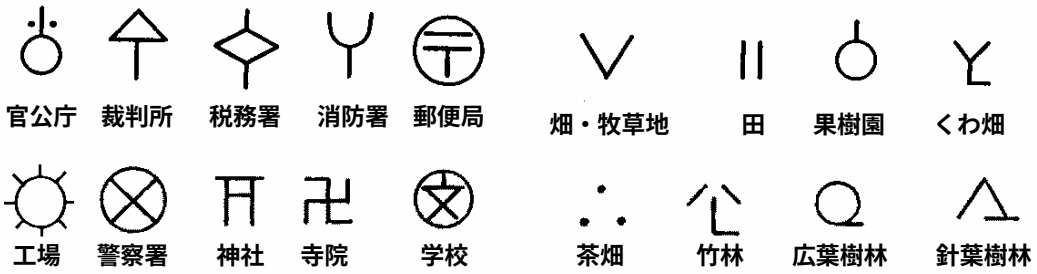
現在、日本の地図作りを担当しているのは、建設省国土地理院で、地図作りのほか、いろいろな研究とサービスを行っています。

●地図記号は変わる

地形図のらん外を見ると、いろいろな地図記号がかいてありますね。この地図記号は、地図作成の年度によって少しずつ変わっています。

下の図は、おもな地図記号を示しています。明治時代の初めのころに作られたものにくらべると、温泉・火山の噴火口・学校・竹林・くわ畑・病院など変わってきた記号がたくさんあります。また、刑務所・専売局・水車などのように、使われなくなった記号もあります。（監修・保岡　孝之）

おもな地図記号



無断複製：転載：翻訳を禁ず　Gakken